

義務教育段階の聴覚障害児に対する漢字の指導に関する調査 —ベテラン教員による日記指導・国語科指導における工夫を通して—

茂木成友（東北福祉大学 教育学部 講師）

【研究の背景と目的】

聴覚障害児者の社会参加において書きことばの活用が重要であるとされてきたが、近年の情報通信機器の普及に伴い常用漢字が増加するなど、社会生活において漢字使用の重要性は高まってきている。そのため、2015年度助成研究では、聴覚障害児の漢字の読み書き習得の特徴について検討を行ったところ、聴覚障害児の漢字の読み書き習得の特徴は、健聴児のそれとは異なる様相を呈することが明らかになった。そこで本研究では、義務教育段階の聴覚障害児に対する漢字の指導の特徴を検討することを目的とした。

【研究1】国語科集団指導・個別指導・日記指導の留意点と漢字の指導の工夫点

関東・東北地方4県の特別支援学校（聴覚障害）小学部に15年以上勤めたベテラン教員10名を対象に、聴覚障害児に対する国語科集団指導、個別指導、日記指導の工夫点について聞き取りを行った。また、それらの工夫点から、聴覚障害児に対する漢字指導の工夫点について検討を行った。

その結果、集団指導における漢字指導については、学年相応の漢字の定着を図るという意見で、ほとんどの教員の意見が一致した。一方で、日記指導における漢字指導については、未習漢字の使用も積極的に促す指導をする教員と、既習漢字の使用にとどめる教員とおおよそ半数ずつに分かれ、教員に応じて漢字指導の在り方については多様な様相があることがうかがわれた。

【研究2】ベテラン教員による日記指導の特徴および日記指導中の漢字指導の様相

研究1で対象とした教員10名のうち、3名の教員が実際に日記指導を行った3,989日分の日記を収集し、日記指導の特徴および日記指導での漢字指導の特徴に焦点をあてて、テキストマイニングによる量的側面の検討を行った。さらに、日記に対するコメント、漢字指導の特徴や工夫点などの質的側面の検討を行うことで、聴覚障害児に対する日記指導の特徴および日記指導中の漢字指導の様相の検討を行った。

その結果、量的側面の検討からは、聴覚障害児が書いた日記にみられる漢字の書き誤りのうち、全数の7割程度については教員が訂正等の指導を行っていることが明らかになった。次に、質的側面の検討からは、漢字指導の7割程度が漢字変換、すなわち、仮名で書かれた単語を漢字で書き直させる指導であることが明らかになった。教員は、既習漢字の定着を図るために、積極的に「漢字変換」をさせる工夫をしていることが示された。

また、教員による児童の見立てと実際の漢字指導の様相を比較したところ、日記指導全般については、教員は児童に必要なと思われる内容について、児童の実態に応じて柔軟に幅広く指導している一方、日記指導中で行われた漢字指導をみると、児童の実態や漢字の誤りの頻度に関わらず、一貫して教員それぞれの指導方針（積極的に誤りを訂正する、あるいは訂正しない。または仮名を漢字に訂正することを重視する、あるいは字形の誤りの訂正を重視する、等）が反映された指導になっていることが示された。

【今後の展望】

本研究では、ベテラン教員を対象として、国語科集団指導、個別指導、日記指導それぞれにおける漢字指導の特徴について検討を行い、漢字指導を行う上でのそれぞれの場面での特徴とベテラン教員による工夫点を明らかにした。本研究の中で、日記指導は、一般的に児童と担任教員との間でやり取りがなされるものであり、他の教員と共有する機会などは無く、相互に学習する機会も得難いとの意見もみられた。そのため、本研究で得られた日記指導の特徴ならびに日記指導中の漢字指導の特徴については、ベテラン教員による指導実践の一例として公開し、今後の特別支援教育（聴覚障害）での指導の一助として役立てられることを期待したい。